

この時計の機種番号: E365

このたびは、シチズンウォッチをお買い上げいただきましてありがとうございます。ご使用前に取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。

Web取扱説明書

QRコードより、この時計のWeb取扱説明書をご覧ください。

citizen.jp/support/guide/html/e365/e365.html






- 最新情報やお知らせなどはこちらをご覧ください。
- 外装機能(計算尺、タキメーターなど)の操作方法もご覧ください。外装機能の搭載は、モデルによって異なります。



安全にお使いいただくために—必ずお読みください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。絵表示の意味をよく理解してから、**20～31**ページを必ずお読みください。

■ 表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
(下記は、絵表示の一例です。)

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。

この時計の特長

■ エコ・ドライブ

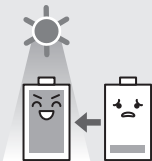
光で充電するため、定期的な電池交換がいりません。
完全に充電すると、365日間動き続けます。

もくじ

ご使用になる前に.....	7
バンド調整について.....	8
保護シールについて.....	8
特殊な構造のりゅうずやボタンの使いかた.....	9
各部の名称.....	10
時刻を合わせる.....	11
カレンダーを合わせる.....	12
充電について.....	13
長期間時計を使わないときは.....	17
停止していた時計に光が当たると.....	18

困ったときは	19
時計の状態と対処方法	19
エコ・ドライブ取り扱い上の注意	20
防水性能について	22
お取り扱いにあたって	24
製品仕様	32

ご使用になる前に



この時計は、文字板に光を当てて充電します。
時計を快適にお使いいただくために、時計に光を
こまめに当てて充電してください。充電について
は、**13** ページ以降をご覧ください。

■バンド調整について

お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)。

バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

■保護シールについて





時計のガラスや金属部分(裏ぶた、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用の前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となる場合があります。

■ 特殊な構造のりゅうずやボタンの使いかた

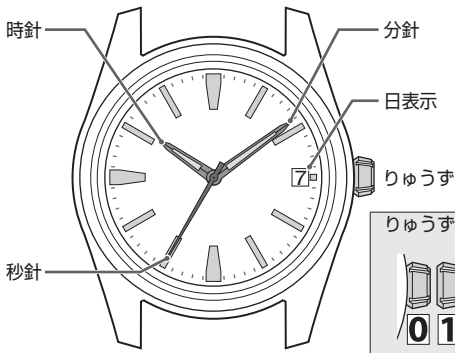
モデルによっては、誤操作を防ぐため、次のような構造のりゅうずやボタンの場合があります。

ねじロックりゅうず・ねじロックボタン

時計を操作するときは、ロックを解除してください。

	ロックを解除する		再びロックする	
ねじロック りゅうず		りゅうずが飛び出すまで、左に回す		りゅうずを押し込みながら右に回し、しっかり締める
ねじロック ボタン		ねじを左に回し、止まるまでゆるめる		ねじを右に回し、しっかり締める

各部の名称



- お買い上げいただいた時計は、イラストと異なる場合があります。

時刻を合わせる



- 1 秒針が0秒を指しているときに、りゅうずを引いて②の位置にする**
秒針が止まります。
- 2 りゅうずを回して、時刻を合わせる**
 - ・分針を5分ほど進めて戻すように合わせると、より正確な位置に合わせられます。
 - ・日表示が切り替わったときが、午前0時です。午前・午後の違いに注意します。
- 3 時報に合わせて、りゅうずを押し込んで①の位置にし、終了する**

カレンダーを合わせる

この時計のカレンダーは31日制です。3月、5月、7月、10月、12月の各1日には、カレンダー合わせが必要です。

- ・午後9時から午前1時の間は、カレンダー合わせを避けてください。カレンダーが正しく切り替わらない場合があります。



- 1 りゅうずを引いて、**1**の位置にする
- 2 りゅうずを左に回して、カレンダーを合わせる
・右に回すと、空回りします。
- 3 りゅうずを押し込んで**0**の位置にして、終了する

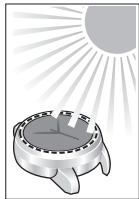
充電について

この時計は、文字板の下にあるソーラーセルによって発電された電気エネルギーを、内蔵の二次電池に蓄えることができます。

充電は、文字板に直射日光や蛍光灯などの光が当たると行われます。

次のような充電を心がけると、時計を快適にご使用いただけます。

- 時計を使用しないときでも、太陽光の当たる窓際などの明るい場所に置く
- 月に一度は時計の文字板を太陽に向けて、5～6時間直射日光に当てる
- 光の当たらない場所で長期保管をしない



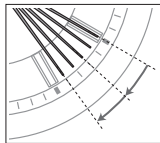
注意

- 故障の原因となりますので高温下(約60℃以上)での充電はおやめください。
 - 衣服などで時計が隠れて光に当たらないと、十分に充電できないのでご注意ください。
-
- 充電完了後、時計は自動で充電を停止します(過充電防止機能)。充電のしすぎによって、時計や二次電池の性能が損なわれることはありません。

■充電不足になると(充電警告機能)

充電不足になると「充電警告機能」が働き、秒針が2秒ごとに動きます(2秒運針)。すみやかに文字板に光を当てて充電してください。

- 充電すると、秒針が1秒ごとに動くようになります(通常運針)。
- 2秒運針が数日間続くと、充電不足で時計が停止します。



充電警告中(2秒運針中)は

時刻やカレンダーは正しく表示されます。

■環境ごとの充電時間の目安

連続して照射した場合の数値です。目安としてご利用ください。

- ・直射日光での充電をおすすめします。蛍光灯や屋内照明では、十分に充電するには明るさが足りません。

環境	明るさ (lx、ルクス)	充電時間(約)		
		通常に動く状態を1日保つ	時計が停止してから通常に動き出すまで	時計が停止してから充電完了まで
屋外(晴天)	100,000	1分	6分	40時間
屋外(曇天)	10,000	9分	1時間	70時間
30W蛍光灯の20cm下	3,000	30分	3.5時間	190時間
屋内照明	500	3時間	25時間	—

充電完了後、一度も充電しないで時計が停止するまでの期間

約1年

■長期間時計を使わないときは

時計を暗所などにしまわずに、文字板に光が当たる場所で保管ください。

りゅうずを②の位置にして時計を停止させること(節電状態)で、電流の消費を抑えることもできます。

■停止していた時計に光が当たると

すぐに、秒針が2秒ごとに動き始めます(クイックスタート機能)。

- 屋内照明の場合、動き出しても再び止まる場合があります。
- より明るい光に当てて、秒針が1秒ごとに動くまで充電を続けてください。

困ったときは

時計の状態と対処方法

時計の状態	対処方法	ページ
針の動きがおかしい		
秒針が2秒ごとに動く	充電警告機能が働いています。時計の充電量が残りわずかです。すぐに充電してください。	15
秒針が動かない	りゅうずを押し込んで、0の位置にします。	-
すべての針が動かない	秒針が1秒ごとに動くまで、直射日光で充電します。	16
カレンダーがおかしい		
カレンダーが午後12時に切り替わる	時刻の午前と午後を正しく合わせ直します。	12

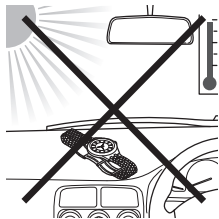
エコ・ドライブ取り扱い上の注意

《時計は常に充電を心がけてお使いください》

- 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため、充電不足になりやすいのでご注意ください。
- 時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

⚠ 注意 充電上の注意

- ・ 充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので高温(約60℃以上)での充電は避けてください。
例)
 - 白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい場所での充電。白熱灯で充電するときは、必ず50 cm以上離して時計が高温にならないように注意して充電してください。
 - 車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電



《二次電池の交換について》

- この時計に使われている二次電池は充電を繰り返し行えるため、従来の一次電池のように定期的な電池交換の必要はありません。
ただし、長期間使用されますと、歯車の汚れ、油切れなどにより電流消費が大きくなり時計の持続時間が短くなることがあります。

警告 二次電池の取り扱いについて

- お客様は時計から二次電池を取り出さないでください。やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、二次電池を飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。発火、環境破壊の原因となりますので、ゴミ回収を行っている市町村の指示に従ってください。

警告 指定の二次電池以外は使わないでください

- この時計に使われている二次電池以外の電池は、絶対に使用しないでください。他の種類の電池を組み込んででも時計は作動しない構造になっていますが、無理に銀電池など、他の種類の電池を使い、万一充電されると過充電となり電池が破裂して時計の破損および人体を傷つける危険があります。二次電池交換の際は、必ず指定の二次電池をご使用ください。







防水性能について

警告 防水性能について

- 時計の文字板及び裏ぶたの防水性能表示をご確認の上、下表を参照して正しくご使用ください。(1 barは約1気圧に相当します)
- WATER RESIST (ANT) × × barはW.R. × × barと表示している場合があります。
- 非防水時計は、水中や水に触れる環境での使用はできません。
- 日常生活用防水時計(3気圧防水)は、洗顔などには使用できますが、水中での使用はできません。

名称	表示	仕様
	文字板または裏ぶた	
非防水時計	—	非防水
日常生活用防水時計	WATER RESIST	3気圧防水
日常生活用強化防水時計	W. R. 5 bar	5気圧防水
	W. R. 10/20 bar	10気圧防水、20気圧防水

- 日常生活用強化防水時計(5気圧防水)は、水泳などには使用できますが、素潜り(スキューバダイビング)やスクーバ潜水などには使用できません。
- 日常生活用強化防水時計(10/20気圧防水)は、素潜りには使用できますが、スクーバ潜水・ヘリウムガスを使う飽和潜水には使用できません。

使用例					
					
水がかかる程度 の使用。(洗顔、雨など)	水仕事や一般 水泳に使用。	スキューバダイ ビング、マリンス ポーツに使用。	空気ポンベを 使用するス クーバ潜水に 使用。	ヘリウムガス を使用する飽 和潜水に使用。	水滴がついた 状態でのりゅ うずやボタンの 操作。
×	×	×	×	×	×
○	×	×	×	×	×
○	○	×	×	×	×
○	○	○	×	×	×

お取り扱いにあたって

注意 人への危害を防ぐために

- 幼児を抱くときなどは、幼児のけがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- 激しい運動や作業などを行うときは、ご自身や第三者へのけがや事故防止のため、十分ご注意ください。
- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため絶対に使用しないでください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。
- 時計をしたまま就寝しないでください。思わぬけがやかぶれを引き起こす恐れがあります。

注意 使用上の注意

- りゅうずは常に押し込んだ状態(通常位置)でご使用ください。りゅうずがねじ締めタイプであれば、しっかり固定されているか確認してください。
- 水分のついたままりゅうず操作をしないでください。時計内部に水分が入り防水不良となる場合があります。
- 万一、時計内部に水が入ったり、またガラスの内面にクモリが発生し長時間消えないときは、そのまま放置せず、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口へ修理、点検を依頼してください。
- 時計の防水性能が高い場合でも、次のことにご注意ください。
 - 海水に浸したときは、真水で洗い乾いた布で良くふきとる。
 - 水道水を蛇口から直接時計にかけない。
 - 入浴するときは時計をはずす。
- 時計内部に海水が入った場合には、箱やビニール袋に入れてすぐに修理依頼をしてください。
時計内部の圧力が高まり、部品(ガラス、りゅうず、プッシュボタンなど)が外れる危険があります。

注意 携帯時の注意

<バンドについて>

- 皮革バンドやウレタンバンド(ゴムバンド)は、汗や汚れにより劣化します。また皮革バンドは自然素材のため磨耗や変形、変色などの経年劣化があります。定期的に交換してください。
- 皮革バンドは材質の特性上、水に濡れると耐久性に影響がでる場合があります。(脱色、接着はがれ)また、かぶれの原因にもなります。
- 皮革バンドに揮発性薬品、漂白剤、アルコール成分が含まれる物質(化粧品など)が付着しないようにしてください。色落ち、早期劣化の原因となります。また、直射日光などの紫外線も変色や変形の原因となります。
- 皮革バンドの時計は防水時計であっても、水を使うときは時計を外すことをおすすめします。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- ウレタンバンド(ゴムバンド)は、衣類等の染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちするもの(衣類、バッグ等)と一緒に使用する場合はご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取替えください。

- 以下の場合は、速やかにバンドの調整・修理をご依頼ください。
 - 腐食により、バンドに異常が認められたとき
 - バンドのピンが飛び出しているとき
- お客様ご自身で時計のバンド(金属やゴム)の長さを調整しないでください。時計が落下したり、調整時にケガをする恐れがあります(製品にバンド調整用の道具が付属している場合は除く)。
バンドの調整は、お買い上げ店または、弊社お問い合わせ窓口にて承っております。その他のお店では有料もしくは取り扱っていない場合があります。

<温度について>

- 極端な高温/低温の環境下では、時計が停止したり、機能が低下する場合があります。製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください。

<磁気について>

- アナログ式クォーツ時計は、磁石を利用した「ステップモーター」で動いており、外部から強い磁気を受けるとモーターの動きがみだされて、正しい時刻を表示しなくなる場合があります。
磁気の強い健康器具(磁気ネックレス・磁気健康腹巻など)、冷蔵庫のマグネットドア、バッグの留め具、携帯電話のスピーカー一部、電磁調理器などに近づけないでください。

<ショックについて>

- ・床面に落とすなどの激しいショックは与えないでください。外装・バンドなどの損傷だけでなく機能、性能に異常を生じる場合があります。

<静電気について>

- ・クォーツ時計に使われているICは、静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので、ご注意ください。

<化学薬品・ガス・水銀について>

- ・化学薬品・ガスの中でのご使用はお避けください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤およびそれらを含むもの(ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤・撥水剤など)が時計に付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりしますと、ケース・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

<保護シールについて>

- ・時計のガラス部分や金属部分(裏ぶた、バンド、中留め)にシールが貼られているときは、ご使用前に必ずはがしてください。シールのすき間に汗や水分が入り込むと、皮膚のかぶれや金属の腐食の原因となります場合があります。

注意 時計は常に清潔に

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、付着しているゴミや汚れが固まり、操作できなくなる事がありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。また、ゴミ、汚れを落としてください。
- ケースやバンドは、直接肌に接しています。金属の腐食や汗、汚れ、ほこりなどの気づかない汚れで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にご使用ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。ケースやバンドに発生したサビ、汚れ、付着した汗、または金属、皮革アレルギーなどにより皮膚にかゆみ・かぶれを生じる場合があります。異常を感じたらすぐに使用を中止して医師に相談してください。汗や汚れが付着した場合は、金属材質のバンドやケースは、はけなどを使い中性洗剤で汚れを除去してください。皮革材質のバンドは、乾いた布などで拭き、汚れを除去してください。
- 皮革バンドは汗や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

時計のお手入れ方法

- ケース・ガラスの汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ウレタンバンド(ゴムバンド)は水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは柔らかいハケなどで除去してください。
- 皮革バンドは乾いた布などで拭いて汚れを除去してください。
- 時計を長時間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などを良く拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。

夜光付き時計の場合は

時計の文字板や針には、放射性物質などの有害物質を一切含まない、人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。

この塗料は太陽光や室内照明(白熱灯を除く)などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出させるため、時間の経過とともに少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、光の照射時間や蓄光塗料の量などによって、発光する時間に差異が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合がありますのでご注意ください。

製品仕様

機種	E365	型式	アナログソーラーパワーウォッチ
時間精度	平均月差± 15秒 常温(+5℃~+35℃)携帯時		
作動温度 範囲	-10℃~+60℃		
表示機能	•時刻：時・分・秒 •カレンダー：日		
持続時間	•充電完了後、一度も充電しないで時計が停止するまで：約1年 充電警告が始まってから時計が停止するまで：約4日		
使用電池	二次電池(ボタン型リチウム電池) 1個		

付加機能	<ul style="list-style-type: none">• 光発電機能• 過充電防止機能• 充電警告機能(2秒運針)• クイックスタート機能• 日早修正機能
------	--





製品仕様は、改良のため、予告なく変更することがあります。

お手持ちの時計がダイバーズウォッチの場合には

お手持ちの時計がダイバーズウォッチかどうかを、記載例で確認してください。
ダイバーズウォッチの場合には、以下の「ダイビングにおける注意」と「水深計測機能について」をお読みください。

「ダイバーズウォッチ」とは、スクーバ潜水などダイビングのための防水性能や専用の機能を持つ時計のことです。ダイバーズウォッチの文字板や裏ぶたには、「DIVER'S」「～m」などの記載があります。

記載例

	ダイバーズウォッチ	一般的な時計
文字板	 A close-up of a diver's watch dial. It features a date window at 3 o'clock, a small seconds sub-dial at 6 o'clock, and a large seconds hand. The text "DIVERS 200m" is printed on the dial. The bezel has markings for 15, 30, and 45 minutes.	 A close-up of a general watch dial. It features a date window at 3 o'clock, a small seconds sub-dial at 6 o'clock, and a large seconds hand. The text "W.R. 20 bar" is printed on the dial. The bezel has markings for 15, 30, and 45 minutes.
裏ぶた	 The case back of a diver's watch. It is curved and has the text "CITIZEN" in the center and "DIVER'S WATCH 200m" along the bottom edge.	 The case back of a general watch. It is curved and has the text "CITIZEN" in the center and "W.R. 20 BAR" along the bottom edge.

(i)

次のページにつづく

ダイビングにおける注意

ダイバーズウォッチをダイビングに使用する際には、当社ウェブサイトです防水性能の詳細を確認の上、この「ダイビングにおける注意」を必ずお読みください。

<https://citizen.jp/support-jp/maintenance/wr.html>



- 上記ページで、「飽和潜水用防水」または「潜水用防水」とされた機能を持つ時計が、ダイバーズウォッチです。
これら以外の時計は、空気ボンベやヘリウムガスを使用したダイビングに使用することはできません。

禁止 ダイビングでの使用禁止事項

- 時計が止まったり異常が生じたときは、ダイビングにこの時計を使用しないでください。
- 秒針が2秒ごとに動いているなどの充電警告中または電池寿命切れ予告機能動作中は、ダイビングにこの時計を使用しないでください。

注意 ダイビングでの使用にあたって

- ダイバースウオッチのご使用にあたっては、必ず各種のダイビングに関する教育やトレーニングを受け、それにしがったルールを守ってご使用ください。
- 時計の取り扱いと注意事項を十分に理解して、正しくご使用ください。
万一この取扱説明書にない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しないことがあります。
- 文字板や裏ぶたに表示された水深表示をご確認いただき、それ以上の深さでは使用しないでください。

注意 ダイビング前の確認事項

時計をダイビングに使用する前に、以下の項目を確認してください。

- 時計が適切に動いているか(時刻/カレンダーなど)
- ダイビングに必要な動力が十分に確保されているか
 - 機械式: ぜんまいが最後まで巻き上げられているか
 - 電池式: 電池寿命切れ予告機能がある場合は、予告機能が動作していないか
 - エコ・ドライブ: 時計が十分に充電され、充電警告(2秒運針)が表示されていないか
- りゅうずやプッシュボタンがきちんと押し込まれ、しっかりねじロックされているか
- バンドが時計本体にしっかり固定されているか
- バンドやガラスにヒビ、キズ、カケなどの異常がないか
- 回転ベゼルが正常に回転するか
 - 回転ベゼルの使いかたについて詳しくは、当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://citizen.jp/support-jp/manual/exterior.html>



注意 ダイビング中は

- 水中で、りゅうずやプッシュボタンを操作しないでください。防水不良などの故障の原因になります。
- 時計を、ダイビングの器材や岩など固いものにぶついたりしないでください。

注意 ダイビング後は

- りゅうずやプッシュボタンがねじロックされていることを確認の上、時計に付着した海水や泥、砂などを真水で良く洗い落とし、乾いた布などで時計の水分を拭き取ってください。

警告 防水性能の維持のために







- 時計に使用されているパッキンは消耗品のため、長期間のご使用により劣化します。パッキンが劣化すると、防水性能を維持できなくなり、時計内部に水が入って時計の機能異常や動作停止の原因となる場合があります。2～3年毎に弊社で点検(有償)をお受けになり、必要に応じてパッキンやガラスなどの交換を行ってください。

ダイバーズウォッチのダイビング性能

文字板または裏ぶたの表示例	<ul style="list-style-type: none"> • DIVER'S ~m • AIR DIVER'S ~m • DIVER'S WATCH ~m 	<ul style="list-style-type: none"> • DIVER'S WATCH ~m FOR SATURATION DIVING • Professional DIVER'S ~m • He-GAS DIVER'S ~m
仕様例	~m 防水	~m 防水
名称	潜水用防水時計	飽和潜水用防水時計
ダイビング性能	空気ポンベ使用のスクーバ潜水	
	ヘリウムガス使用の飽和潜水などにはご利用いただけません。	ヘリウムガス使用の飽和潜水

- 弊社のダイバーズウォッチは国際規格 (ISO6425:1996またはISO6425:2018) に適合しています。
- 潜水時以外の防水性能・防水機能については、取扱説明書の他の注意事項もご確認ください。

ダイビングにおける注意

文字板または裏ぶたの表示例		<ul style="list-style-type: none"> • DIVER'S ~m • AIR DIVER'S ~m • DIVER'S WATCH ~m 	<ul style="list-style-type: none"> • DIVER'S WATCH ~m FOR SATURATION DIVING • Professional DIVER'S ~m • He-GAS DIVER'S ~m
使用例	 水がかかる程度の使用。 (洗顔、雨など)	○	○
	 水仕事や一般水泳に使用。	○	○
	 スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	○	○
	 空気ポンペ使用のスクーバ潜水に使用。	○	○
	 ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用。	×	○
	 濡れたままのりゅうずやボタンの操作。	×	×

(vii)

次のページにつづく

水深計測機能について

水深計測機能を持つ時計の場合は、以下も併せてお読みください。

危険

この時計の水深計測機能は公的機関の計測器として認可されたものではありません。
潜水やダイビングを行う際は、時計の水深計測機能に頼らず、必ず専用機器と併用してください。

警告

以下の場合、時計の水深計測機能を使用しないでください。

- ・危険をとまなう行動や状況判断が必要な場合
- ・その他、特殊な取り扱いをする場合
- ・充電が不十分な場合または電池寿命予告機能が動作中の場合

注意

- ・以下の場合、計測が正しく行われなことがあります。
 - 急激な水深の変化があった場合
 - 水圧センサーの周りに異物が付着している場合

注意 水深計測を始める前に

- 潜水やダイビングの際は、安全な潜水に必要な経験と技術を習得した上で行ってください。
- 以下の項目を確認してください。
 - 潜水やダイビング専用の、市販の専用機器を用意している
 - 時計のバンドが傷んでいない
 - 水圧センサーや水感知センサーの周りに異物が付着していない
 - りゅうずやボタンのロックがかかっている
 - 時計の充電量が十分または電池寿命まで十分な時間がある
 - 「OVER」など計測ができない表示が、表示されていない
 - 時計の表示時刻が正しい

注意 高所および淡水における潜水について

- 高所および淡水におけるダイビングでは、事前に特別の安全教育を受けてください。
- 海拔4,000 mを超える所では正しい水深計測ができないため、使用しないでください。
- 水深計測機能では、海水(比重1.025)を基準に水深が表示されます。
淡水(比重1.000)における潜水では、実際の水深は、時計に表示されている水深よりも2.5%深くなります。
淡水での水深計測例) 20 m(表示中の水深) \times 1.025=20.5 m(実際の水深)